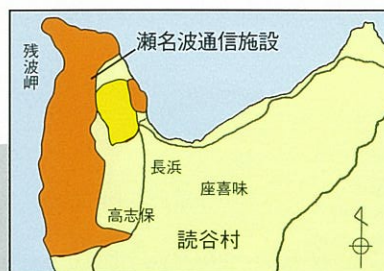


瀬名波通信施設（旧：ポロー・ポイント射撃場）（読谷村）

- 1 基地名：瀬名波通信施設
- 2 所在地：読谷村宇瀬名波・字宇座・字渡慶次
- 3 返還面積：4,617千㎡

4 主な沿革

- ・昭和20年：米軍により接收
- ・昭和48年：210千㎡が返還
- ・昭和49年：2,714千㎡が返還
- ・昭和51年：1,065千㎡が返還
- ・昭和52年：13千㎡が返還
- ・昭和58年：5千㎡が返還
- ・平成4年：1千㎡が返還
- ・平成18年：609千㎡が返還され、マイクロ・ウェーブ塔部分を除き全部返還となる



5 接收の経緯

この地域一帯は、農耕地として使用されていたところであるが、去る大戦において米軍の上陸地点となり、昭和20年頃にほぼ全村域が占領下に置かれた。

米軍は当初、飛行場として使用していたが、嘉手納飛行場や読谷補助飛行場が整備されたことに伴い、戦車の砲撃演習場並びに戦闘機による射撃や銃撃演習ほか、残波岬地域はナイキ・ハーキュリーズ基地としても使用されていた。

昭和52年10月に名称が「ポロー・ポイント射撃場」から「瀬名波通信施設」に変更された。

6 返還の経緯

昭和48年から部分的に返還が行われ、昭和49年に2,714千㎡、昭和51年に1,065千㎡の返還などがあった。

平成8年のSACO最終報告でマイクロ・ウェーブ塔部分を除く全部返還が合意され、平成18年に609千㎡が返還され、全部返還となった。

7 現在の土地利用状況

返還跡地は、復帰先地整備事業や土地改良事業が実施されたほか、残波岬公園等が整備され、ホテルやゴルフ場などのリゾート地として発展している。



宇座復帰先地整備事業地区
平成21年3月



残波岬公園
平成21年3月

返還後



返還前



(写真提供: 沖縄タイムス)

返還後



瀬名波通信施設跡地 平成17年4月(写真提供: 沖縄タイムス)